

平成 25 年度まちづくり懇談会会議録【嶺田地区】

日 時 平成 25 年 10 月 31 日 19:00~20:30
会 場 嶺田地区コミュニティセンター
参加者 74 人

「菊川市の危機管理体制と地域防災計画について」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

会場からのご意見・ご質問

中嶺田：男性

2 点伺いたい。1 点目は同報無線についてだが、6 月だか 7 月に Jアラートが誤作動で鳴ったが田んぼにいたが聞きとれなかった。原因は声が太い声、ガラガラ声だったこと。それから設置場所が、屋外は中嶺田には消防小屋のところに一つしかないため、薬師堂のところでは風など吹けば聞こえない。22 年度のアエルでの防災会議のときに薬師堂のところに屋外の末端をつけていただきたいとお願ひし、持ち帰って検討するということがあったが、3 年位経つがどうなっているか。もう 1 点。防災対策には人、モノ、金が必要になると思うが、合併特例債の関係や原発の補助金がなくなるというが、その場合に防災に及ぼす影響についてお聞きしたい。

安全課長からの回答

同報無線については、3 年前のアエルで屋外スピーカーが小笠地域のなかで風向きもあるが聞きにくいということ伺った。いま新たに屋外スピーカーの取り付けの計画を進めている。配置転換等もう一度確認をするなかでお知らせをさせていただきます。

中嶺田自治会：男性

11 月 29 日か 30 日に無線の関係をやると思うが来ていただいて聞いてもらえばよくわかると思う。

安全課長からの回答

Jアラートの訓練放送は男性の低い声、電子音、衛星から飛んできたものを音声信号に置き換えるので、その点をご理解をいただきたい。現場は確認させていただく。

危機管理部長からの回答

予算の関係についてお話をさせていただく。同報無線のデジタル化機器更新に今年、来年で4億円近い。自主防災に対する補助を上げたり大きな予算を掛けている。県も交付金を3年まとめて支給し、有効に使えというふうに方向が変わったりしてここ何年かの間は手厚いがその後はわからない。いろんな要件があるが、防災は欠くことができないので、予算確保にがんばっていく。

西嶺田自治会：男性

子どもの頃から水害や地震を心配してきた。実際には67～68年で記憶のなかでは水害は、2～3度。西ヶ崎のところで、決壊というより強い風が吹くと水が吹き上がったということと57年の特に潮海寺周辺が相当の被害があった。その57年から30数年が経過している。逐次改修をしてきて相当、強固、川幅が広がったりしていると思うが比較して状況はどうか。当時の雨量に比べ大島はその倍というが、その半分ぐらいは防げるような状態になっているのか。昔は堤防の草を台風前から刈っていて、水の流れもよかったが、国交省の草刈りは高いところから2～3メートルのところしか刈っていない、平場のほうは刈っていない。下の方は水の流れに影響がないなら税金を使って上の方も刈る必要がないのではないか。

もう一点、女性の防災への参画といったが、社会が変わってきて、若者やその奥さんは皆働いていて昼間はいない。昼間は70以上の高齢者ばかりで理想論はいいが、現実には日中は無理だと思うが、モデル的なものが近隣他県の良い事例があれば研究してもらって、菊川市にも導入してもらいたい。

安全課長からの回答

河川については水量、水位については家庭にハザードマップを以前配布した。その中に書いてあるのでまたご覧いただきたい。菊川本川においては流域12時間雨量で275mmを前提として改修されている。100年に1回の雨で菊川及び牛淵川が氾濫することをシュミレーションに求めて想定図を作っている。こういったものを参考にして地域の中の被害がどうなるかを知っていただきたいと考えます。この地域だけに降るということでなく菊川全域で降るとどうなるかということがあるので、くわしくまたお知らせができればと思います。河川の堤防の除草については国の直轄により進められているのは知っているのですが、除草作業のお話があったことはお伝えさせていただく。

女性の参画については、地域のなかで高齢化が進み、若い人が日中いないのは他の地域でも同様で、これに備えるためにどうするか。昼間どうなのか、夜

はどうか、日曜がどうか、地域の中で実態を調べることが必要かと思う。その中で出来る限りの対策を作る、その上でさらに嶺田地区全体でどうサポートできるかを考えていただければと思います。

大石：男性

河川の草の問題だが、柳の太い枝があり、それで流れが悪い。3年前に国交省に言ったが、予算がないと言われたので、市からも言ってもらいたい。伊豆大島では町長出張中で避難指示が出せなかったというが菊川市の場合はどうなのか。また、同報無線は中嶺田だけでなく全体的に聞こえにくい。議会報告会で調べたと聞いたが結果はどうか。

危機管理部長からの回答

市の配備体制は資料の6ページにある。1次から3次までの配備体制があり、大島とは違う。また、市長不在でも代理で避難指示が出せるようになっている。

安全課長からの回答

同報無線はデジタル化をしていく。市全域で波が届くかどうかを調べた。スピーカーの音については当時も調べたが、その後人家も増えたため、どうなっているか調べてお知らせする。

危機管理部長からの回答

資料4ページに責務が示されている。市長、副市長、危機管理監といった順番の体制です。

市長からの回答

河川については、上流部の雨で急激に水位が上がることがわかっている。草刈り、ひ門、ひ管の管理にご協力いただき感謝している。管理は平田出張所になるが、国交省、浜松事務所に出向いてお願いをしている。現在は菊川の河口部の浚渫を第1優先でお願いしている。平川で40cmくらい水位が下がるというデータがある。特に地域でこのことを優先して欲しいということがあれば建設課に伝えて欲しい。

大石：男性

太い枝だけでも切ってくれないか。

市長からの回答

全て河川改修の整備計画に沿ってやっている。例えば堰の問題もそう。皆さんの意見を聞いて国に働きかけていく。

_____ : 男性

危機管理で緊急性のあること。例えば死傷者が出た場合の医療体制について。救護所は北小だが、そこに医師はいるのか。医師を置くためには医療機関と常に話してどういった体制が組めるか、事前に話し合っ把握していく必要があるのではないか。

_____ 危機管理部長からの回答

医療救護体制の計画がある。菊川地域では「けやき」、小笠地域では「あかつちクリニック」が救護所になり、そこに医師がいる。12月1日の地域防災訓練でも医師が来て訓練を行う。ケガ人が増えれば北小、西中、東中の3箇所を増やすことになる。

(閉会 : 20:30)